

# 平成 29 年度 (2017)

## 国語 (第二回)

設問		得点率 (%)	設問		得点率 (%)
1 説明文	問1	65.3	2 物語文	問1	73.2
	問2	64.6		問2	82.6
	問3	35.4		問3	50.7
	問4	64.6		問4	88.7
	問5	50.4		問5	35.3
	問6	89.0		問6	86.2
	問7	77.9		問7	36.9
	問8	84.4		問8	86.7

1 出典：菅野仁『友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える』

問一 1 頁下段 45 行目「『人は一人では生きていけない』というこれまでの前提」のその「前提」に関して説明する問題でした。29 行目にある「生活に必要な物資を調達するためにも、仕事に就くにしても、いろいろな人たちの手を借りなければいけなかった」という部分をまとめれば正解となります。なお、解答の文末は「～前提。」とすることが求められますが、概ねよくできていました。得点率は約 65%でした。

問二 1 頁下段 53 行目「こうした観点」を説明する問題です。「こうした」という指示語より、傍線部より前の部分に着目し、直前の 50 行目の部分の要点をまとめれば正解となります。解答に使用する箇所を見つけることができた受験生は多く、概ねよくできていましたが、文末を「～観点。」にすることに留意しすぎたのか、「～なっている観点。」など、文末表現にうまく接続できておらず、日本語として不自然な答案が散見されました。得点率は約 65%でした。

問三 2 頁上段 73 行目「かえって傷ついたり、人を追い詰めたりする」という箇所に関する設問です。現代において、人とのつながりをもとめることによってかえって不利益が生じてしまう、その原因を答える必要があります。76 行目の「『ムラ社会』の時代の伝統的な考えを引きずっているから」、また、95 行目の「さまざまに多様で異質な生活形態や価値観をもった人びとが隣り合って暮らしているいまの時代」という、「現代」に関して説明している箇所をまとめれば正解となりますが、81～86 行目の「若い人」に関する具体

的な事例を参照してしまう答案が散見されました。また、「価値観」を「価値感」「価値観」などと誤って書いているものや、文章が長くなってしまったために主語が抜けてしまって不自然な文章になっている答案が多かった印象です。得点率は約35%でした。

問四 2頁上段97行目、空欄4に入る二字の熟語を選ぶ問題です。ここは過去の時代における共同体の作法を説明している部分であり、91行目に「みんな同じような職業や生活形態を前提とする」とあることから、アの「同質」が正解となります。「同質性」という言葉に耳慣れなれなかったのか、得点率は思ったよりも低く、約65%でした。

問五 脱けている文を本文中の適切な位置に戻す問題です。脱けている文の中の「そのこと」は「人とのつながりを持つこと」という内容であることなどから、61行目の「誰かとつながりを保ちたい。」の直後に戻すことができます。正解は「だからほと」の五字となります。「そのこと」の内容をつかみきれなかった答案が散見されたこと、加えて、設問文の「直後」を「直前」と読み間違えてしまい、「保ちたい。」という答案が散見されました。得点率は約50%でした。

問六 空欄AからDに適切なことばを入れる問題です。Aは15行目にある「しかし」という逆接の接続詞との関係性からエの「もちろん」、Bは直前まで、一人では生活できない過去の生活状況について述べ、直後では、一人でも生きていける現代の生活状況について述べていますので、逆接の意味であるウの「ところが」が入ります。Cは直前までの現代の生活状況を直後でより具体的な、より顕著な例を説明していますので、アの「とりわけ」、Dは直後でここまでの内容を理由とした上での筆者の主張が述べられていますので、イの「だから」がそれぞれ入ります。得点率は約89%と、ほとんどの受験生が正解でした。

問七 漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。「集落」が「周落」、「確固」が「各個」、「格好」、「結構」が「結講」となっている答案がありました。得点率は約78%でした。

問八 本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。1頁下段34～44行目の内容と合致するイが正解です。アは「暮らしている場所が都会であれば都会であるほど」の部分が、1頁上段10行目の内容に反します。ウは「若い人よりも年配の方が」の部分が、2頁上段79行目の内容に反します。エを選んでしまった答案が少々ありましたが、前半の「都市開発」に関する記述は本文にはありませんし、後半の「昔ながらの人と人とのつながりのあり方に立ち返るべき」という主張も本文にはありません。全体的には概ねよくできており、得点率は約84%でした。

2 出典：村田沙耶香『マウス』

問一 4頁上段16行目の「私たち」を別の言葉で具体的に言い換える問題です。4頁下段57行目の「私、麗ちゃん、久美ちゃんの三人組」を抜き出します。「元通り、大人しい女の子のグループ」という誤答が目立ちました。得点率は約73%でした。

問二 4頁上段20行目に入るのにもっともふさわしい台詞を選ぶ問題です。直後の律の台

詞より、瀬里奈は早野さんと話すことに対して肯定的な返事をしたことがうかがえますので、アとイは不正解です。ウの選択肢は肯定的な返事はしていますが、前半の「久美ちゃんもそう言ってたけど」の部分が、本文からは読み取れないので誤りです。したがって正解はエです。ウを選んでしまう誤答がありましたが全体的には概ねよくできており、得点率は約83%でした。

問三 4頁下段58行目「クラスのすみっこに溶け込んでいった。」を説明する問題です。「クラスのすみっこに溶けこむ」という表現は、「クラスの中で目立たない存在になった」と言い換えることができます。これにその原因、つまり、瀬里奈が律たちのグループから離れたことを指摘すれば、より良い解答になります。この原因の部分が書けている答案が多く、また、目立たない存在になったのが「律たち」であることをしっかりと指摘できていないものが多く、結果的に主語が抜けている答案も目立ちました。文末を「～こと。」にすることはよく注意できていました。得点率は約51%でした。

問四 「内」という字を使った慣用句の問題です。正解は、一がア、二がオ、三がエ、四がウ、五がイです。ほとんどの受験生ができており、得点率は約89%でした。

問五 5頁下段95行目「麗ちゃんにそう言われることが意外で」の理由を問う問題です。5頁上段93行目の麗ちゃんの台詞より、麗ちゃんに友達で良かったと感謝されたことに対して意外に思った理由を答えます。律が機嫌を損ねやすい麗ちゃんに気を遣って接していたという旨が正解になりますが、「気を遣っていた」の部分が欠けており、部分点のみにとどまる答案が非常に多かったです。得点率は約35%でした。

問六 声を我慢して泣くということの意味する「目頭を押さえる」という慣用表現の知識を問いました。正解は「目」です。「白」という誤答もありましたが、概ねよくできていました。得点率は約86%でした。

問七 5頁下段115行目「ワークブックでとてもいい点数をとっていた」を説明する問題です。「ワークブック」という語は人との会話のことを表しており、人との会話において「いい点数をとる」というのは、相手に合わせた的確な返答をすることと言えます。この比喻表現をうまく表せるかがポイントでしたが、そもそも「ワークブック」が人との会話を表す比喻表現であることに気づいていない答案も目立ちました。また、麗ちゃんとの会話の場面にのみ限定している答案や、「会話が上手になった」など、説明の具体性に乏しい答案なども散見されました。全体を通して文末表現や不自然な日本語表現などに関する細かなミスが散見され、得点率は約37%でした。

問八 本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。正解はイです。他の選択肢を見ますと、アは「瀬里奈の読書をめぐる会話が原因で話をしなくなり」というのは言い切れませんし、「それを見かねた早野が瀬里奈に話しかけるようになって」に該当する記述も本文にはありません。ウは後半の「かえって瀬里奈は麗たちに誤解され」という記述が本文にはありません。エは後半の「瀬里奈の容姿にあこがれる早野はそういう交友は瀬里奈に似合わないと思い、」の記述が本文にはないため、誤りです。得点率は約87%でした。